

平成 26 年度第 2 回市川市史編さん委員会 会議録

高橋主幹 会議に先立ち、定足数の確認をさせていただきます。ただ今の出席委員は委員 11 名中 6 名であり、市川市史編さん委員会条例第 6 条第 2 項に規定いたします、開催要件である過半数以上の委員の出席を満たしておりますことを確認いたします。

…（会議途中より久留島委員が出席）…

また、本日は傍聴者の方はいらっしゃいません。

それでは吉村委員長よりしくをお願いします。

議 長 これから平成 26 年度第 2 回市川市史編さん委員会を開催します。
本日の議題につきましては、あらかじめ皆さんのお手元に郵送されているかと思いますが、「平成 26 年度事業について」、「通史編」について、「市川市史本編のタイトルについて」の 3 点になります。議事に先立ちまして、事務局の方から配布資料の確認をお願いします。

高橋主幹 …（配布資料の確認）…

議 長 それでは早速議事に入りたいと思います。始めに、「議題 1」と書いてあります「平成 26 年度事業について」審議したいと思います。じゃ、事務局の方から説明をお願いいたします。

松尾課長 「平成 26 年度事業について」ご説明させていただきます。
市史各編ということで、歴史編、民俗編、自然編の各編の刊行に向けた大まかな動きを年度当初の計画に照らしてご報告させていただきます。
まず第 6 巻の自然編でございます。
当初の計画通り、執筆編集作業を進めております。自然編については、平成 26 年、27 年の 2 カ年の債務負担行為を設定し、11 月の契約より第 6 巻制作業務委託を開始しました。現在、月 1 回の編集会議で原稿の査読、検討を行い、順次執筆者への修正依頼を行っているところでございます。今後は、5 月末までに修正原稿の提出を締め切り、6 月、7 月で原稿の調整、委託業者による見本組の印刷を予定しております。なお、第 1 章「市川市の地形と気象」については、歴史編第 1 巻「地形と環境」との調整が必要な部分となるため、1 章の修正原稿が出揃った段階で関係者の方々と個別に相談し、調整を進めたいと考えております。調整時期は 6 月頃を予定しております。また、表紙のデザインなど装丁につきましては、市史全巻の統一性を考慮する必要がありますので、見本組がある程度できあがった段階で、編さん委員会に報告し、ご意見をいただきたいと考えております。報告時期は 7 月か 8 月頃を予定しております。

次に、第1巻から第4巻の歴史編でございます。

昨年度に引き続き各巻調査を進めております。第3巻については、特に本年度が主要な調査を行う最終年度であり、法皇塚古墳・弘法寺古墳の測量と、法皇塚古墳出土資料の実測図トレース作業を委託で行いました。また、平成28年度の刊行に向け、調査編集委員を3名増員いたしまして、編集体制を整えるとともに、構成内容の見直し、執筆細則の作成、執筆者の検討と選出を進めております。

次に第5巻民俗編でございます。フィールドワークを中心とした調査活動を継続して進めております。年度目標である構成内容の見直しにつきましては、調査編集委員を1名増員いたしまして、章立てを見直すとともに、不足していた調査の洗い出しを行ったところでございます。なお、分野ごとの調査活動の詳細につきましては、委員会終了後、報告案件の中で各専門員よりご報告を申し上げたいと思います。

次に、(2)の付帯事業でございます。付帯刊行物の作成、刊行頒布状況については、お手元の資料にありますので、ご覧いただきたいと思います。本年度は、2冊の刊行物を作成いたしました。『写真図録 この街に生きる、暮らす』は11月3日、市制施行80周年に合わせまして、4,500部を作成し、このうち約2,000部を記念式典で配布いたしました。有料頒布部数は、2月末現在で769であり、内訳は市役所関係施設で467部、市川市書店協同組合で302部となっております。なお、写真図録の刊行については、1月と2月に新聞に紹介記事が掲載されたこともありまして、市民の方からも大変ご好評をいただいております。また刊行後の業務といたしまして、現在掲載写真の年代・場所特定の根拠となった資料の整理作業を調査員の方に依頼して進めております。

次に、市史研究についてです。『市史研究いちかわ』第6号については、1,000部を作成いたしまして、執筆関係者及び公共図書館等への寄贈分として350部程度を見込んでおります。第6号には、一般市民からの投稿原稿を1本掲載しております。その他の調査報告書といたしまして、第1巻の関係で古環境復元に関わるポーリング調査報告書を予定しておりましたけれども、これにつきましては、市史研究の第5号及び第6号の2回に分けて、調査結果をまとめ報告書に代えております。また、第3巻にかかる報告書は、国府台遺跡関係の遺物整理の成果を国府調査報告としてPDFにまとめる予定で、現在編集中でございます。

前回の編さん委員会におきまして、刊行物の売払い方法の改善についてご意見をいただいたところでございます。このことにつきましては、今年度、ペイジー等の決済サービスや銀行振り込みについて検討を進めてまいりましたが、ペイジーにつきましては、システム改修に非常に多額の予算が必要であること、銀行振り込みにつきましては、関係部署との調整において、新たな口座の開設や既存口座の活用が不可能であるということが調整の中で出てまいりました。これから継続して関係課と協議を進める必要があると考えているところでござ

います。しかしながら、写真図録につきましては、書店での店頭販売について、市川市書店協同組合の協力を得ることができ、現在のところ、販売の方も好調な数字を伸ばしております。

次に講演会の開催でございます。今年度は「手児奈伝説の舞台「真間の入江」の実像に迫る」をテーマに、11月23日に開催しました。定員200名のところ、228名の方に来場いただいております。お手元の参考資料にアンケートの集計結果の概要をまとめておりますので、併せてご覧いただきたいと思っております。講演内容につきましては、今回来場者から大変好評をいただいております。今後とりあげてほしいテーマについては、資料の設問4にございます。新しい市史についてのご意見については設問7で記載がございますので、参考にご覧いただきたいと思っております。議題1につきましては、以上です。

議長 ありがとうございます。ただ今、議題1、「平成26年度事業について」説明がありました。この内容につきましてご意見がありますでしょうか。

…意見無し…

議長 それでは、今年度は年度当初の計画通り進捗しているということで良いかと思っております。平成27年度以降も引き続き基本計画・刊行計画に基づいて事業を進めてもらうということで、よろしいでしょうか。

…合意…

議長 それでは、計画通り進めさせていただくということになります。次に議題2「通史編」について、やはり事務局の方から説明をお願いします。

松尾課長 通史編につきましてこれまでの経緯でございますが、歴史編がテーマ別で編成されておりますことから、概要版として市川の歴史を通史的に扱う巻が必要である、とのご意見を受け、通史編を設けることにしたものでございます。しかし、通史編をどのような内容にするかということにつきましては、これまで具体的な議論ができておりませんでした。

参考資料2刊行計画をご覧ください。刊行計画では、平成32年度に通史編を刊行する計画にしております。来年度から、本編の刊行が開始されるにあたりまして、市川市史の全体像についての関心が高まることが予想されますので、通史編の具体的な内容を決める時期に来ていると考えております。

このようななか、市制施行80周年事業として本年度、教育委員会から『図説市川の歴史』改訂版が刊行されることになりました。この『図説市川の歴史』は、原始・古代から平成の時代までがバランスよくまとめられております。旧版も再版されているなど、市民からの需要も大変高くなっております。市民にとっ

てわかりやすく親しみやすい通史編とは何かを考えた場合に、この『図説市川の歴史』をイメージすることができるかと思います。このたび改訂版として新しいものが出るということで、『図説市川の歴史』が通史編に変わるものとして、位置づけることも可能ではないかとも考えております。このことにつきまして、委員の皆様のご意見をうかがうとともに、委員の皆様が持たれている通史編のイメージを確認させていただければと思います。参考資料といたしまして、『図説市川の歴史』を回覧させていただきたいと思います。

事務局 （回覧資料のうち）3部は旧版ですが、本日博物館から改訂版を1部見本でご用意しておりますので、順番にご覧いただければと思います。また、改訂版『図説市川の歴史』の目次ページのコピーをお配りいたします。

…（『図説市川の歴史』回覧）…

議長 改訂版ではなく「第二版」となっています。

事務局 「第二版」が正式な名前です。

議長 通史編について説明がありましたが、『図説市川の歴史』第二版と、我々が考えていた通史編の件について、ご意見をお伺いしたいと思います。

石川委員 ボリュームは『図説市川の歴史』に比べてどうですか。

事務局 本編と同様400ページを検討しております。

石川委員 当然のことながら、（市史の通史編と『図説市川の歴史』は）違いますよね。（『図説市川の歴史』は）非常によくできており、ビジュアル的にも行間がたっぷりあって目にやさしい。非常に工夫されて作成されていると思います。しかし、やはり、市史は、重厚すぎると固すぎるかもしれませんが、情報量が違いますし、もう少し解説が必要であろうと思います。（『図説市川の歴史』は）要点を相当しぼって書かれています。当然、誰が手にとっても（市史の通史編と『図説市川の歴史』とは）違うものだと思われかと思えます。

議長 今、石川委員からご意見がありました。

石川委員 それから、講演会のアンケートの回答の中に、「新しい市史についての意見」という、とても良い設問を設けていただいている。参加された方から、そんなに多くはありませんが、期待されている。市民からの面白いご意見をいただいています。「遺跡や地図を多用してほしい」。やはり、遺跡、史跡の現地に立てる

ような（ものが求められている）、これは対応できるのではないかと思います。市史もやはり、こういった配慮をしてほしいとか、「少数派の見解（も載せてほしい）」。確かにその通りで、多数派の意見、定説といってもやはり異論というものがある訳で、場合によってはそういうものを少し紹介してほしい（というご意見がある）。「地形の変遷（地震・津波を考えた行政の対応を含む）」。これは自然のところでは、震災（東日本大震災）以降、こういった面について市民の方あるいは近隣の方がかなり関心をお持ちですので、そういう意味での配慮した書き方は、おそらくこれ（本編）には無いかと思いますので、通史編の中に盛り込む。こういった（市民の方からの）意見を考えながら、（通史編の）構成を考える必要があるのではないかと。とても良い意見をいただいたように感じます。

議長 いかがでしょうか。僕自身も歴史研究をやっていますが、歴史研究というものは最終的には叙述に結実しないといけない。いくら良い研究をしても叙述の問題が出てくるだろう。それに、今回の市史は歴史編の場合は、1巻から4巻までは問題（テーマ）史的になっていますので、最終的には通史という形でまとめる必要があることは、誰が書くかは別として、歴史の根本から言って当然だと僕は思う。ただ、どういう形で書くか。力量のある人に通史をお願いできるかどうかにかかってきます。やはり、市川市の領域、あるいはもう少し広げて房総、東京、そういうレベルを含めて、わかるような通史があった方がいいことは間違いないと思います。

今まであまり議論してこなかったというよりは、それぞれ1巻から4巻、民俗編、自然編の方が忙しくてそこまでいかなかったというのが正直なところです。それと、通史編といった場合には、民俗とか自然をどういう形で組み合わせしていくか。

山崎委員 よろしいでしょうか。

議長 はい。

山崎委員 自然編については、みなさんにわかるということから、（自然編自体を）通史で作っております。ただ、「おはなし」になってはいけないということで、できるだけ時間の経過、いつ、どこで、何があったかということがわかるように作っております。それからある程度、数字的なものをきちんと出すということでやっております。ただ、自然編の場合には、10年ほど前に、市川市から自然環境実態調査報告書が出ておりますので、これが資料編になる形です。もう一つは、深く知りたい方のためには、ある程度参考文献を記載しますので、そこから拾っていくよう、詳しく知りたい場合は参考文献を見て研究していただきたいという形にする予定です。

議長 単に要約を作るということではない通史編ですよ。そこが重要なことだと思います。

米屋委員 民俗分野でこれを議論してきたわけではなく、個人的な意見ですが、民俗編発行の翌年に（通史編が）続く訳ですよ。民俗は、前回の市史には無く今回が初めてということで、全力投球しようということで進めています。その翌年に通史というのは、かなり早くから並行して仕事を進めなければいけないということもあり、関わるのが難しいのではないかと思います。

議長 今回の関係者が携わるということではなく、例えば近世、近現代で生活の問題などを取り上げる時に特定の方をお願いするということでは、どうでしょうか。

杉原委員 （他の自治体でも）市史編さんに携わっていましたが、通史というものをどう取り扱うか、各市町村で違うように感じます。あるところは、非常にわかりやすく、物語風な通史にしているところがあります。そこには参考文献の引用などはやらず物語風に記述してしまう。誰でも読める。そういう記述の仕方をしています。おそらく市民の要望ですよ。そうしてください（物語風に書いてください）という意見があるのだらうと思います。参考文献を何も引用せずに通史を書くというのは少し抵抗がありますが、それでも良いという考え方です。それから、歴史編、民俗編、自然編とこれらを合わせて要約した形で通史編を作るとなると、要約しただけではあまり意味がないし、もっと視点を変えたような、そういうもので通史を作ったらどうか。あるいは、項目の立て方を変えた形での通史編ができないかということも、あると思います。いずれにしても、ただ、各編をまとめたような形での通史編はあまり意味が無い。そういう気がします。ただ、図や写真を使う場合は、どうしても市川市にある、例えば自然編の場合は、市が所有している写真というものは限られています。おそらく『図説市川の歴史』に使われている図も、自然編の場合も、（歴史編の）『地形と環境』の場合も（同じものを）使わなければならない部分がある。そういう状態ですが、同じ写真が何回も出てくるのはあまり（好ましくない）。新しく資料を集めるのは大変なことだなあと感じます。その辺が気がかりになります。

議長 通史編については、肯定的な意見というか、『図説市川の歴史』に）代替することは無いという意見が多かったかなと思います。

（通史編については）小委員会を作って検討した方がいいと思います。通史編を作るためにどういう視点でやるのか。通史とは何かという問題は難しいと思います。ただ、わかりやすい通史という、我々の市川市史はわかりやすさ、市民にとっての親しみやすさとか、いくつか柱を立てて（編さんして）います。その通りに作るのは非常に難しいことは難しいですが、頑張ってやった方が意

味があるように思います。

山崎委員 初歩的なことですが、通史編は1冊で作る計画ですか。

議 長 もちろん1冊です。

山崎委員 ということは、ダイジェスト版でしょうか。

議 長 ダイジェスト版ではないです。要約ですと杉原委員が言われたように、あまり意味がないように思います。作るとすれば、図説や図解とは違った形で通史を構成する。

山崎委員 千葉県史の自然編は第1巻がそれにあたります。

議 長 自然の場合、自然環境など自治体ごとにあることでしょうか、そういうところをそれぞれの方が書くというよりは、むしろある人に（まとめて書いていただく）。通史編は、人数が多くなると非常に読みづらくなってしまいます。ある程度力のある人が、（それぞれの方が）書かれている内容を重視しながら、基礎的な内容を、ひとつの視点、あるいは複数の視点でも良いが、書き上げるようにしないといけない。

では、そういう方向で、来年度は事務局とも相談しつつ進めるということで、よろしいでしょうか。今、（通史編が必要であるという）要望はあると思いますが、日本の歴史を交えて市川の事象を散りばめるということはやめた方が良いわけですね。市川の視点から、どのような切り口で、これはできるかどうか難しいと思いますが、少し工夫してもいいかもしれません。

米屋委員 先ほど委員長がおっしゃったように、これ（『図説市川の歴史』）が出ていますから、作るとしたらこれとは全く違うもの、重ならないものを作らなければならない訳ですね。最近の自治体史の中で、通史編はこれがいいぞというものを見つけるなり、あるいは、杉原先生がおっしゃったように、本当に物語的に、小、中学生が「市川の歴史はこうなんだ」とわかる、そういう語り性というか、ストーリー性のある形にするのか。やはり議論が必要かなと思いますので、小委員会なりで練って、最終的に刊行するのか、やっぱりやめようというのか、練った方が良いと思います。

議 長 たたき台を作る必要があります。その上で議論するということにしないと、何も無い段階で、良いとか悪いということは難しい。

石川委員 刊行計画の表を拝見すると、先ほど言われたように、民俗編と第4巻の翌年に

通史編が刊行ですよね。通史編というのは、やはり物語的というよりも、1巻から6巻の記載内容を受けたもので、通史編を読んで「もうちょっと、どうなっているのだろう。」という時に、1巻から6巻にいけるような、そういう道筋になるものが、恐らく、本当に物語になってしまうことを避けるひとつの方策ではないかと思います。そうなると、民俗編と第4巻『変貌する市川市域』が刊行される年に、通史編の執筆、編集が進められますのでスケジュール的に相当厳しいという印象があります。第1～3巻あたりを反映させるのは、頑張れば可能かもしれませんが、スケジュール的に厳しいというのが心配ですね。

議 長 第4巻の関係でしょうか。新しい（時代）と通史をどうするか。その辺のたたき台を作るような、小委員会なりプロジェクトを作って、事務局の方と相談しながらということにいたしましょう。
よろしいでしょうか。

松尾課長 今回の通史編を刊行するというお話の流れの中で、その具体的な内容ですとか、体制ですとか、スケジュール等を早めに決めていく必要があるかと思いますが、どの分野の先生方にとか、その辺の絞り込みはいかがでしょうか。

議 長 やはり通史となると、各時代に精通している人がそれぞれいないと、400ページあるものは無理ですね。1人の人間ではとても書けない。ですから、当然数人で、古代のイメージからいっても、考古関係、奈良、平安くらいで3、4人いないと、とても書けない。そういう意味では人数が多くなりますが、奈良時代を数人で書くということをやっていると、とてもできません。文章が統一できない。ストーリー性、読んだ時に流れが通るようになるためには、人数をある程度絞らないといけない。ただ、その源として、数人はいないと駄目でしょう。さっき米屋委員が言われたように、同時並行は難しいとなると、通史の項目のなかで、ここはどうしても、たとえば民俗の人に書いてほしいとか、自然の人に書いてほしいという部分が出てくるかと思います。要約でもなく、関係性を持たせるということは難しい。

石川委員 今回の（事務局からの）要望というかご意見は、執筆者ではなく、案を作る、検討する人ということですか。

松尾課長 はい、案を検討するメンバーです。

石川委員 執筆者を考えて決めてしまうと、ダイジェスト版になってしまいかねないので（確認しました）。

議 長 通史でいく場合、数人の小委員会をもって、事務局の人に手伝ってもらってや

る。

事務局 委員長、そうしますと、やはり小委員会は歴史分野の方に中心となっていていただくことでよろしいでしょうか。

議長 よろしいでしょうか。通史というのは、自然史まで入れると大変ですが、一応は歴史（分野を中心とする）というか。自然の方でも歴史の方がおられるみたいですが。

山崎委員 読者の方から考えると、（通史を）全部読まなくてもいいのかなと。読みたければ各巻を見るという形で作る。（通史編と本編との関係は）大人向けと、子ども向けなのかなという感じがしない訳でもない。

…（久留島委員の参加）…

議長 人選も含めて、新年度もう一度数人で（検討する）。とりあえずたたき台を作るという作業がやはり必要です。1回ではできないかもしれません。

杉原委員 事務局の方で、通史編にどういうものがあるかという見本を集めていただきたい。たたき台が無いと、何も考えられない。

事務局 今回、通史編について、他の自治体をいくつか見てみましたが、1巻から何巻という形で、それぞれの巻が時代ごとに作られている通史編というものがあり、それに対応する形で資料編を作っているというオーソドックスな形が一番多いように思われます。テーマ別で作られているところは、通史編というものがあつたうえで、例えば「諸職」などのテーマで、特別編というものが作られているというパターンが多いように思われました。

議長 明治大学では東日本の地方市史はそれなりに持っています。西日本の町村史になると少し弱いですが、今も継続して市史は買っています。僕も見たいと思いますし、少し考えさせていただいて、たたき台の小委員会みたいなものをつくるということで、よろしいでしょうか。

…合意…

議長 やる方向で進めることにいたします。

矢越専門員 よろしいでしょうか。

議 長 はい。

矢越専門員 市史のなかで一番早く刊行される巻の巻末に、市史の全容を、第 1 巻から第 7 巻まであってそのなかの第 6 巻であるということを明記すると思いますので、恐らく来年の 3 月には、出すか出さないかを決めなければいけないのではと思います。

議 長 もちろん、そうです。来年度前半に決めないと駄目ですね。無いことにしていたものを出すのは大変です。
では、通史編につきましては、来年度の前半までに、遅くとも、自然編のどこかに全何巻と書く必要があるでしょうから、そこには書けるような形で進めていくことにいたします。それぞれアイデアなりがありましたら、事務局の方へ提案していただきたいと思います。
よろしいでしょうか。それではこれで、議題 2 を終了させていただきまして、次は議題 3 「市川市史本編のタイトルについて」ということで、また事務局の方からよろしいでしょうか。

松尾課長 はい、ご説明いたします。タイトルということでございます。タイトルのスタイルは全巻で統一したものが必要であろうと考えております。第 6 巻の見本組を 7 月頃に作成予定でございますので、その際に、表紙にタイトルを表記できるようにしたいと考えております。他の自治体などを見てみますと、「新修」「新」と付けているところもございます。今後、数十年後に、市川市史の編さんが行われる可能性もあります。「新」という言葉を付けることが適当かどうか、というような考え方もあるかと思っております。全巻のタイトル表記について、来年度最初の編さん委員会で、ご意見をいただきたいと思っておりますが、現時点でご提案やご意見があれば、本日いただきたいと思っております。以上です。

議 長 市史は、「改訂版」は駄目です。
それほどいくつも（名称の案が）出てくるようにも思いませんが、いかがでしょうか。

石川委員 この（資料記載の）2 つ以外にあるのですか。「新八王子市史」「新大津市史」「新修〇〇」というものと、相模原のもの。この 2 種類くらいしか思いつかない。

事務局 このほか、それぞれ巻ごとに独特のタイトルがついているものもございます。

議 長 「新」が一番簡潔です。

杉原委員 「新」「新版」が一般的ですよ。次は「新新」になるのか「最新」になるのか。

議長 これは他もそうですよね。例えば、「日本古典文学大系」があつて「新 日本古典文学大系」がある。あるいは「新編 日本古典文学全集」。「新編」という文言が入っていますね、新しく編集したという。

事務局 相模原市史は、特に「新」等はつけていません。前回と同じように、「相模原市史 ○○編」という形です。

議長 今、いくつか出ましたので、その意見をふまえて、来年度の最初の編さん委員会で、最終的なタイトル候補を決定するということにします。

石川委員 1点だけ。

議長 はい。

石川委員 相模原市史の場合、どういう考えから、「新」をつけなかったということを、確認、聞いていただくことはできますか。おそらく、意図的に考えられたと思います。

事務局 はい。

議長 それでは、議題 3 につきましてはこれで終了させていただきたいと思います。本日の議題については、これで終了するということになります。どうもありがとうございました。